

## 至適使用のポイント（医療従事者用）

### 💊 なんでなるの？

- SGLT2阻害薬服用中は、尿中の糖濃度が上昇して微生物が増殖しやすい環境になります。
- **糖尿病患者は尿糖排泄量が多く、易感染傾向であるため特に注意してください。**

### 💊 症状

- SGLT2阻害薬の服用により、外陰腔カンジダ症などの真菌による**性器感染症のリスクが有意に上昇**したことが報告されています（☞CQ14参照）。
- SGLT2阻害薬は腎盂腎炎・膀胱炎などの尿路感染症を有意に増加させませんが、易感染患者では予防が必要です（☞CQ15参照）。
- 投与初期～継続期、いつでも発症する恐れがあります<sup>1)</sup>。
- 男性より女性に多く発症します。女性には特に丁寧に説明してください。
- 早期発見、早期治療が重要です。患者交付用指導箋に示した症状を発見した時は、重篤な感染症に移行しないように速やかに専門医を受診するよう促してください。

### 💊 フルニエ壊疽（壊死性筋膜炎）

- 国内において、SGLT2阻害薬との因果関係が否定できないフルニエ壊疽を認めた症例が報告されています<sup>2,3)</sup>。
- 外陰部・会陰部に急速に進行する壊死性軟部組織感染症です。好気性菌と嫌気性菌の混合感染が多く、早期に集学的治療がおこなわれても死亡率が約20%と予後の悪い重篤な疾患です。フルニエ壊疽を疑う症状（外陰部、会陰部、肛門周囲の発赤、腫脹、疼痛）に注意して、発見した場合は速やかに専門医を受診するよう促してください（☞CQ14参照）。

### 💊 予防法

- 患者の**ADLや衛生状態に合わせた指導**が必要です。
- 介護が必要な患者への投与はリスクが高く望ましくないと考えますが、投与する場合には家族や福祉・介護職員などの介護者に指導をおこなってください。  
おむつは蒸れやすいため定期的に交換し、陰部に異常がないか確認するよう説明してください。

#### 引用文献

- 1) 日本糖尿病学会：糖尿病治療におけるSGLT2阻害薬の適正使用に関するRecommendation（22年7月26日改定）
- 2) 坂本旭ら。皮膚臨床 2020；62：1022-26. J-GLOBAL ID：202002222760944076
- 3) 今石奈緒ら。糖尿病 2019；62：389-97. J-GLOBAL ID：201902277819245217

### 性器感染症・尿路感染症

- **なんで性器感染症・尿路感染症になるの？**
  - ✓ SGLT2阻害薬は尿中の糖を増加させる作用があるため、菌が繁殖しやすい状態になります。
  - ✓ 性器感染症（性器カンジダ症など）や尿路感染症（膀胱炎・腎盂腎炎など）にかかりやすくなるため、**陰部や尿に異常がないかチェックしましょう。**
- **性器感染症・尿路感染症の症状**
  - ✓ 以下の症状があるときは、医師や薬剤師にご相談ください

**性器感染症**

  - 陰部のかゆみ、痛み
  - 陰部の腫れ、発赤
  - おりものの異常（量や色の变化、臭い）

**尿路感染症**

  - いつもより尿に近い
  - 残尿感、排尿時の痛み
  - 尿が白く濁っている
  - 尿に血が混じっている

背部痛、腰痛
発熱、寒気


- **予防法**
  - ✓ こまめな水分補給をおこなきましょう（☞「水分補給」の説明書を参照）
  - ✓ **陰部を清潔に保ってください**
  - ✓ 通気性の良い下着を着ましょう
  - ✓ 下着は常に清潔にしましょう
  - ✓ おむつはなるべく頻りに交換しましょう
  - ✓ トイレを我慢しないようにしましょう
  - ✓ トイレの後は前から後ろにふきましょう
  - ✓ 毎日お風呂に入りましょう



©2023日本腎臓病薬物療法学会